

在住外国人の方のための

VIVA! ひめじ

<日本語版> 2004. 2月 No. 8

発行(財)姫路市国際交流協会
情報誌作成ボランティア

URL <http://www.himeji-iec.or.jp>

P1... people
P2,P3 ... ベトナム「シン・チャオ(こんにちは)」part2
P4,P5... 医療情報
P6... お知らせ



<People > Andreas Pfaff

三菱電機でエンジニアをされている、アンドレアス パフさんは、2002年5月に来日されました。パフさんは、デュッセルドルフ(Düsseldorf)から120キロ東にある、人口が約4500人程の小さなシュタインハウゼン(Steinhausen)という町で生まれ育ちました。主な産業は、セメント工業や住宅産業で、のどかな田園地帯が広がる静かな町です。ドイツの三菱電機に入社して、出張で姫路に来たのが、初めての日本への訪問でした。その時の姫路の印象は、道路や駅が清潔で、人も親切で優しくったということです。その時に食べた日本食、天ぷらやお寿司もおいしくて好きになりました。ですから、日本への転勤が決まったときも、別段、不安には思いませんでした。日本語は3週間ほど、ドイツで勉強して、来日してからは1週間に2度YMCAに通われ、ひらがな、カタカナをマスターし、漢字も読むことはできるということです。

パフさんは国際交流フェスティバルでは、料理の担当を引き受けてくださいました。実はパフさんは料理もされるということで、フェスティバルでは、「スウィーブル・クーヘン」(Zwiebelkuchen)を作っていただけ、大変好評で、あっという間に売り切れました。姫路でのボランティア活動にも積極的に協力して下さっているパフさんですが、やはりドイツでも趣味のフォークダンスグループに所属し、ハンガリー、オランダ、アイルランドなどの国々へボランティアとして行かれました。

姫路は、パフさんにとって忘れられない地となりました。というのは、この地で最愛のパートナーと巡り逢い、二人で帰国されるからです。今年4月に帰国されますが、パフさんの夢は、もう一度日本に戻ってもっとたくさんの場所を訪ねてみることです。

ドイツは環境先進国で有名ですが、パフさんは、姫路でもしっかりとゴミの分別をされています。「紙のゴミと生ゴミまで分別する」という徹底ぶりに、パートナーのあつみさんも苦笑い、というドイツならではのエピソードも教えていただきました。長時間のインタビューにもかかわらず、丁寧に答えてくださいました。国際交流協会の活動にも、いろいろと協力していただきました。本当にありがとうございました。そして、どうぞお幸せに。



Xin chào! (シン・チャオ..ベトナム語の「こんにちは」) NO. 2

2003年8月22日、姫路フレンドフル市民大会が行われ、ベトナムの子どもたちがムーラン(ベトナムの伝統芸能で日本の獅子舞に似ている)を演じました。その様子を、東光中学1年生のファン・タン・タン・ハンさんが作文にしました。

母国の文化に触れ、将来に不安を感じながらも、懸命に未来を見つめている姿が伝わってきます。

【ムーランをして思うこと】

8月22日、姫路フレンドフル市民大会に参加しました。フレンドフル市民大会とは、どんなものなのか今まで知りませんでした。先生に聞くと、『いじめをなくして、みんなで仲良くしようとおびかける会だよ。』と、教えてくれました。今回は、そこで東光中学校と城東小学校のベトナム人の有志がベトナムのししまいのムーランを力を合わせておどりました。たくさんの人々が見に来ていました。舞台上に立ったとき、とてもドキドキしました。私は、ベトナムの民族楽器をたんとしました。少ししばいもしたけどうまくいって、大きなはく手をしてもらったときは、すごくうれしかったです。

私たちが、フレンドフル市民大会に参加したのは、きっと、私たちに自信をつけ、助け合いがんばるためのチャンスを下さったのではないかと思います。

東光中学校には、28人のベトナム人がいます。普段みんなでいっしょに活動することがないので、こんなに大ぜいのベトナム人の仲間がいたことに今まで私は、気がつきませんでした。毎日の勉強やクラブ活動におわれて、自分のことも、友達のことを考える余裕がありませんでした。そんな中で、日本語がわからなくて学校が楽しくなくなり、だんだん休みがふえていった友達がいます。私は、小学校3年のときにベトナムから日本にやってきました。そのときは、日本のことは、わからないし、言葉もつうじなくて、毎日不安で仕方がありませんでした。日本に来て4年目になって、だいぶ言葉もわかるようになりました。でも、中学校の勉強はむずかしくて、ついていく自信がなくなりそうです。4年目の私がそうなのですから、日本に来て1年や2年の人にとっては、もっと勉強がむずかしくて、がんばっていく自信がなくなるのもむりはありません。ベトナム人にとって、この日本で生きていくことは、かんたんなことではありません。なりたいものになれない。夢もちたなくても、もてません。将来のことを考えると、先がどうなるか不安でたまりません。けれど、ベトナムに帰るわけにはいかないのです。帰っても生活できるだけの仕事がありません。ベトナムに帰った人のなかには、いじめられている人もいます。私たちは、ベトナム人なのにベトナムにも、日本にも、い場所を見つけることは、むずかしいです。

ムーランは、そんな私たちのたった1つのじまんです。みんなの前でムーランをおどっているときは、はずかしいけど気持ちいいです。終わったときはスカッとします。いろいろなことやこともあつたり、助け合つたりしながら、みんながなんとかが中学校を卒業し、それぞれの夢を見つけられたらどんなにいいだろうと思っています。私は、この日本で夢を見つけて生きていきたいです。



—この作文は、「2003年度ちがうことこそすばらしい!子ども作文コンクール中学生の部」で入賞しました。—

★★★子どもたちの夢の実現の為に、支援している人達をご紹介します。★★★

城東町補習教室(城東町総合センター毎週土曜日13:30~15:00)

城東小学校の金川香雪先生(0792-82-0924)や多文化共生サポーター(子どもの為に通訳・翻訳などをする)の永谷佳子さん(yanagatani@yahoo.co.jp)、主婦や学生が「高校に進学出来る学力をつけ、将来の選択肢を広げてあげたい」と勉強の補習をしています。教材などを工面するため、子どもたちが描いたムーランの絵はがき(1枚100円)を販売中

***市川台教室(市川台1丁目・市営住宅集会室、毎週水曜日19:00~20:30)

城東教室(城東町竹の門・城東公民館、第2・第4火曜日19:00~20:30)***

山崎憲先生研究室 (0792-23-0970) yamasaki@himeji-du.ac.jp

獨協大学日本語教育ボランティアグループの大学生が日本語や教科学習の指導をしています。

カトリック姫路教会(0792-22-0043)の勉強会(毎週土曜日15:00~17:00)

教会ボランティアの斉藤靖子さんや、賢明女子学院、淳心学院の中学生・高校生などが、家庭的な雰囲気です。小学生に各教科学習の指導をしています。

ムーランの指導(花田小学校・花田公民館・城東小学校)

自宅に「在日ベトナム人協会姫路連絡所」(0792-25-0583)を設けているグエン・フー・チエンさんが、子どもたちには花田小学校で、夫人の芳には花田公民館で、ボランティアチームを結成し、指導しています。

城東小学校では、チエンさんから語りを引き継いだ金川香雪先生も指導しています。

チエンさんは、ご夫婦で、苦情や相談・病院の付き添いなどにも応じています。

ベトナム人の子どもや親たちの最大の悩みは、「中学校卒業後のことです。日本語理解力不足や家庭の諸事情などのため、真平均の割を超える全日制高校の進学率が、ベトナム人の場合はわずか4割にもなっていません。

(現在日外国人教育研究協議会調査1992年~1997年平均)

個人的な指導、特に高校受験にむけては、教科ごとの指導経験のある芳や学生、時間を作って下さる芳など、手伝って頂ける芳が多いに越したことはありません。荷らかのかたちでご協力をさせて頂いたら、「高校に行く。」「高校に行けた。」「バイトではなく就職出来た。」という子どもたちが一人でも増え、日本の未来も変わるかもしれません。

「異文化は、溶け込むものではなく、混じり合うこと。」と書かれています。

心に国境を作らず、「誰もが住みやすいまち」になるように、皆さん、考えてみませんか。

《お問合せ》 AMDA国際医療情報センター関西
電話 06-4395-0555
FAX 06-4395-0554

③多文化共生センター・ひょうご

「多文化共生センター」は阪神大震災の年にできたNPOです。外国人も同じ地域に暮らす住民として、さまざまな文化をもった人を支援しています。

・保健・医療・健康の相談（無料）

多文化共生センター・ひょうごでは、多言語（ポルトガル語、スペイン語、英語、日本語）による相談を行っています。ブラジルの医師の資格を持った相談員が対応します。

相談できる内容は、健康の問題（調子がわるいところがある）、妊娠や出産の相談、専門用語や制度の解説などです。（診察をしたり、薬を出すことはできません）

（面接相談）（なるべく予約をしてください）

日時：毎月第2、第4水曜日 9：30～12：00

場所：谷本外科医院3階（神戸市東灘区、JR甲南山手駅南約5分、国道2号線沿い）

（電話相談）

日時：毎月第2、第4水曜日 12：30～15：00

電話：078-453-1224

診断書や検査結果などの翻訳も行なっています（有料）。詳しくはお問合せください。

《お問合せ》 多文化共生センター・ひょうご
電話 078-453-7440
FAX 078-453-7443
E-MAIL cmia.hyogo@mbe.nifty.com

④イーグレひめじ4階図書コーナーの本

①16ヶ国語診察補助表

受付・会計時の会話、患者から医師へ症状の伝え方、検査時の会話、医師から患者へ治療の説明・診断、注意事項、服薬指導等が、英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、中国語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ラオス語、カンボジア語、ベルシャ語、ベンガル語、ロシア語、フランス語、インドネシア語、ミャンマー語で、1言語12頁にわたり日本語と外国語の両方で書かれています。

②9ヶ国語対応服薬指導の本

どのような症状があり、どのような薬がほしいのか、病歴、アレルギーの有無、定期的に服用している薬、服用時の詳しい注意事項、副作用の説明など、薬を使用するときに必要な説明が英語・スペイン語・ポルトガル語・ベルシャ語・中国語・韓国語・タイ語・ビリピノ（タガログ）語・ベトナム語で、1言語16頁にわたり書かれています。

☆☆☆ (財)姫路市国際交流協会からのお知らせ ☆☆☆

平成16年(2004年)3月14日(日)に姫路市国際課が講演会を開催します。
国際交流・協力に関心のある方は、ぜひ参加して下さい！



「国際化市民啓発講演会」

場所：イーグレひめじ3階 あいめっせホール

時間：13:30～

共催：独立行政法人 国際協力機構(JICA)

ここ数年、国際交流・協力や多文化共生社会のあり方について関心が高まっています。
より多くの方々に国際的な知識を身につけていただくため、庄野真代さん(歌手)の講演会と、
姫路市出身の海外青年協力隊OB・OGに体験談を発表していただきます。
体験談の後には募集案内も行います。

※※※※ 編集後記 ※※※※

年末年始の多忙な時期ゆえ、取材のアポがとれなかったり、メンバーの日程調整がうまくいかなかったりと、いろいろなハプニングのあった今年度最後の「VIVA ひめじ」作成。それでもようやく発行にこぎつけることができました。あっという間の一年。今年度は、新たにベトナム語版が発刊されるなど、画期的な出来事もありました。

今後みなさんのさまざまな御意見を取り入れながら、さらに内容を充実させ、国際交流に役立つ情報誌にしていきたいと思っております。

VIVA9号は、6月中旬発行予定です。どうぞお楽しみに。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。

※※※※※

翻訳・ネイティブチェックのお手伝いをいただいた方

英語：野崎敬子、木場武司、大谷尚美、斉田朋子 菅郁恵

中国語：周江寿、原由香、山成広子、王志勤

ポルトガル語：大畑えい子、木場真津子、奥田ユキエ、ガブリエル島袋、竹下弘一

ベトナム語：ゲン、石田建

許可いただいた方のみ掲載しています

ご協力ありがとうございました

連絡先

(財)姫路市国際交流協会 Himeji International Association

〒670-0012 姫路市本町68-290 イーグレひめじ3階

TEL 0792(87)0820 FAX 0792(87)0805

Mail to : kokusai@city.himeji.hyogo.jp